

3. 施設環境部門の想定される関心事と課題

ご担当者の関心事

- 産廃物の物流システムがないために、特に再資源に対する情報があっても進捗していない
- 大量の産廃物を在庫しておく場所がない
- 分別、破碎、圧縮、梱包設備設置など、投資が必要
- 少量収集、運搬、多量蓄積、輸送方法など、未確立
- 許可を持っている産廃中間処理業者とタイアップする必要があるが、信頼のおける相手と提携したい
- 最終処理まで一貫した処理システムと、処理技術を持っている中間処理業者選定は難しいが、種類によって特性を持つ最適業者を選定したい
- コストダウンを図りたい
- 最終処分場（例えばセメント工場、製鉄所）における、処理体制が整っている（連携できる）、中間処理業者を選定したい
- 廃棄物及び再資源のメンテナンス一切を引き受ける業者を選びたい
- 汚泥の処理も一括して処理してもらえると助かる
- 適正処理（処理会社がISO14001取得は必須）
- リサイクル処理（現在排出される廃棄物の中でのリサイクルできない、特に塩ビ系プラスチック。金属複合のプラスチック）

課題 1

- 信頼できる業者の選定—
1. 高度な処理システム・設備技術を持っている業者
 2. 長年蓄積された経験と、ノウハウ
 3. 最終処分場と連携の取れている体制

課題 2

- ローコストオペレーション—
1. 収集・運搬費の適正料金
 2. （できれば）現状コストの削減

ダイトクのご提案領域

- ご担当者のご指導に基づいた廃棄物リサイクル処理システムの構築
- (1) 廃プラスチックのリサイクル処理体制
 - (2) サーマルリサイクルの確立
 - (3) ケミカルリサイクルの確立
 - (4) マテリアルリサイクルの確立
 - (5) 液状産廃処理・泥状産廃処理・特管産廃処理
 - (6) OA機器の分解・解体のリサイクルの確立・LCDモニター等の解体ラインの設備確立
 - (7) 廃棄家電製品・半製品の解体・リサイクル処理の確立
ローコストオペレーションに対応した廃棄物リサイクル協業の実務内容と進め方